



子どもたちに豊かな体験を

9月から10月にかけて、各学年で様々な体験活動を行っています。

5年生の自然教室は、あいにくの天候でしたが、子どもたちは木の実を使ったものづくりやグループで協力する施設内のフィールドワークに生き生きと活動に取り組みました。



4年生は、車いすやアイマスクなどの体験を通じて、障がいのある方の暮らしに思いをめぐらし、介助犬とかかわり、自分たちにできることはないかと考えていきました。総合的な学習の時間で大切にしている、現実の社会の課題にふれさせることを意図したものです。

このほかにも、1年生での昔遊びや2年生でのみなにこサロン、3年生での認知症センター養成講座、富の里との交流会、さらには今月の6年生の修学旅行と各学年に応じた体験活動を行っています。

さて、学校でこのような体験を重視する理由について、毎回ながら「脳科学」の視点からふれてみたいと思います。前回のPTA講演会でも話しましたが、脳は各部分に分かれ、様々な役割を担っています。医学博士の加藤俊徳先生は、これらの部分を「脳番地」と呼び、「思考系」や「感情系」といった8つの番地に分けることを提唱されています。このなかで、大ざっぱに言うと、脳を横から見た時の前方、つまりおでこの方にあるものが、「思考や感情、伝達」といった高次な活動を担う部分です。そして、後頭部の方が「視覚や聴覚、記憶」といった役割を担う部分です。ここで大切なことは、加藤先生も提唱されている「脳は後ろから育てる」という考え方です。後ろとは、すなわち、「見る・聞く・運動する」といった役割を担うところですから、そのような活動を子どもにたくさんさせることが重要だということなのです。「よく考える子どもに育てたい」と言いますが、思考しようにも思考の材料である知識を見たり、聞いたりして獲得していかなければ、思考する「もの」がなく、できないということになります。ですから、見る、聞く、人と話す、運動する、手を使って物をつくるといった体験活動が大切なのです。そのような活動を経験してきた子どもたちは、新しい課題に対しても、自ら体験を通して知識を獲得し、それらをもとに思考し、正しい判断をすることができるのです。

気候がよくなる秋本番を迎えます。ご家庭でも、体験活動を企画してはいかがでしょう。国立青少年教育振興機構の調査でも、「子どもの体験が豊富な大人ほど、やる気や生き甲斐をもっている人が多い。」という結果が出ていますし、「親の体験活動の質・量が子どもの成長に影響を与える」という報告も出ています。

10月行事予定

4日	火	研究会参加のため13:20下校
5日	水	ふれあいデー(2年)
6日	木	ふれあいデー(1年)
7日	金	クラブ活動
8日	土	土曜授業・みなかぜ寺子屋 みんなさんぽ (地域行事に1年・6年が参加)
11日	火	★宿題忘れ0の日
12日	水	修学旅行(6年)
13日	木	修学旅行(6年)
16日	日	みなかぜ音楽祭(地域行事)
19日	水	南風朝の会 ふれあいデー(4年)
20日	木	★宿題忘れ0の日 ふれあいデー(3年)
21日	金	クラブ活動・クラブ見学(3年)
24日	月	いじめアンケート
28日	金	秋の遠足(お弁当の日)
31日	月	★宿題忘れ0の日 委員会活動

11月の主な予定

1日	火	ファミリー読書スタート
4日	金	クラブ活動
7日	月	ランニングタイム開始
10日	木	★宿題忘れ0の日
12日	土	南風文化祭
14日	月	振替休業日(11月12日分)
16日	水	音楽鑑賞会
17日	木	親子規範意識学習(3・4年)
18日	金	親子規範意識学習(5・6年)
21日	月	★宿題忘れ0週間(~25日)
24日	木	全校学習参観(道徳) PTA講演会
30日	水	★宿題忘れ0の日